

決算説明会資料

株式会社ファインデックス

2021年12月期 第2四半期決算
2021年 8月



2021年12月期 第2四半期業績

2021年第2四半期 業績・前年比（連結）

- ・ 2020年の第1四半期はコロナ禍において病院の予算消化もあり、通年以上に利益が高い構成であった。
→従って、今期は前年同期比ではマイナスとなったが、期初予測を上回る業績となった。
- ・ 2021年は、下期に予定していた大規模病院の導入案件が前倒しとなった。
→期初予測を上回る売上高を上期で計上。

上記2点より、期初に発表した通期予測に対し、今期は順調に推移。

（単位：百万円）

	2020年 2Q 実績（連結）	2021年 2Q 実績（連結）	前年同期比	対予算比
売上高	2,260	2,405	106.4 %	109.5%
営業利益	552	488	88.4 %	122.2%
経常利益	555	505	91.0 %	126.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	375	340	90.7 %	123.8%
1株当たり 当期純利益金額（円）	14.67	13.30	—	—

セグメント別の業績（連結）

（単位：百万円）

	報告セグメント		調整額 （※ 1）	計（連結実績） （※ 2）
	システム 開発事業	ヘルステック 事業		
外部顧客への売上高	2,388	16	－	2,405
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	－	△1	－
売上合計	2,390	16	△1	2,405
セグメント利益又は損失（△）	601	△112	－	488

※ 1． 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

2． セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2021年12月期 第2四半期顧客数の増加

四半期末システムユーザー数および増減

(単位：施設)

規模	2020年末	2021年 2Q	増加数※
大規模病院（500床以上）	256	255	-1
中規模病院（100～499床）	570	583	13
小規模病院（20～99床）	132	132	0
診療所（20床以下）	1,166	1,181	15
その他医療関連施設	55	54	-1
非医療機関	13	19	6
地域包括ケア関連	20	24	4
合計	2,212	2,248	36

※増加数は新規ユーザーの純粋増加数（区分変更も含む）であり、これらに加え「システム更新」があります。

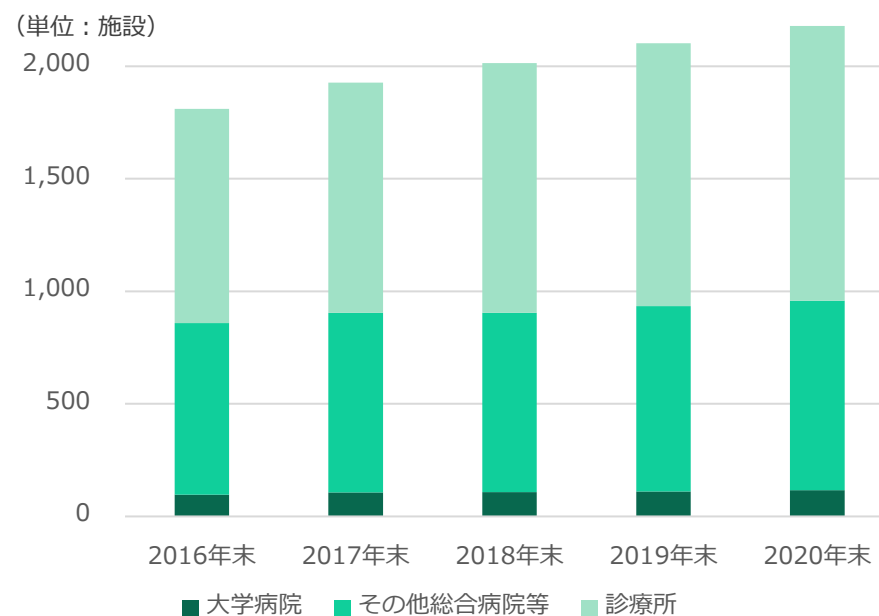


他メーカーを圧倒する
全国国立大学病院のシェア
= 78.5%

500床以上の
大規模病院導入率 = 63.6%

その他の病院
診療所ユーザー → 1,800以上

導入ユーザー数の推移

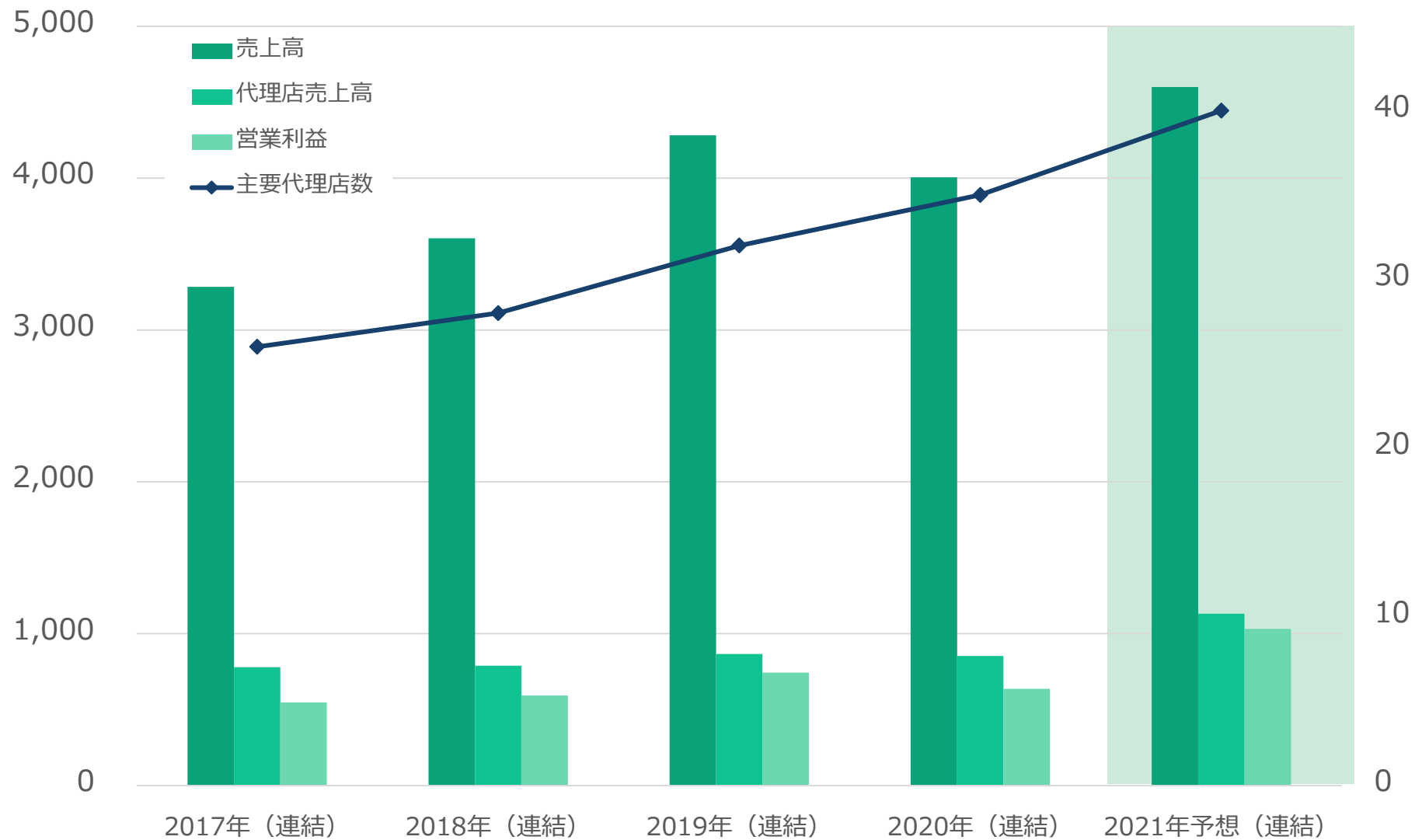


(2021年6月末現在)

代理店周辺環境

(単位：百万円)

(単位：件)



業績拡大と高利益率のビジネスの展開に取り組む

国内



代理店経由で複数デモが進行

- 通算販売台数 = 8 台 (GAP-Screener/GAP)
- 国内眼科の1/3がファインデックスユーザー
⇒ 既存顧客への営業を優先
- マスク装着時のレンズ曇りに対処するため、一時デモを中断
⇒ 既に再開済 (P.10参照)

京都大学との追加研究を実施中

- **AMED** (日本医療研究開発機構) の令和3年度医工連携・人工知能実装研究事業において、プロジェクトが採択
⇒ **5年間で計2億6千万円**の予算を取得
- 視野異常のみに留まらず、**MCI** (早期認知症) の発見にも有用
- 他精神疾患や脳疾患の検査にも転用の可能性

海外



EUにてMDR (薬事承認) 申請中

- コロナの影響で承認機関の手続きがスローに
- **CEマーク** (EU基準適合) は取得済
- 国内の販売総代理店と契約締結済、輸出ルートや現地販売網も確保済
⇒ デイラー数は **EU : 33、中東・アフリカ : 23**

他地域での販売戦略も順次策定中

- 販売網構築のため、他社協業の商談中
- 中国やインド、ASEAN地域での販売
⇒ 日本とEUでの信用性が担保に
- 北米・中南米での販売
⇒ FDAの承認を目指すべくプロセス選定中

国内・海外共に新型コロナウイルス感染症の影響を受け計画より遅延が発生しているものの、特許に守られた新しい視野計への期待度は非常に高く、商談や研究は順調に推移中

コロナ時代で習慣化したマスク装着によるレンズの曇りを解消、
マスク着用時でも、安心・安全・正確に検査の実施が可能に！

流行前

マスクを装着して
検査を行う想定なし



新型コロナウイルス流行

流行後

病院ではマスク着用が義務化
被検者がマスクを外さず
検査を行うことが推奨



With コロナの 新たな課題

HMD(ヘッドマウントディスプレイ) の密接な装着により暗室を
作り出すため、マスクからの呼吸漏れで検査時にレンズの曇りが発生

解決策

装着面へ小型ファンを2箇所設置、内部の湿気を外へ放出
外気も取り込むことで、被検者はマスクをした状態でも
検査が可能に！

小型ファンで
空気を循環



マスク装着時だけでなく、
夏場の発汗時や、冬場の寒暖差にも有効に！

2021年12月期 今後の見通し

2021年業績予測（連結）

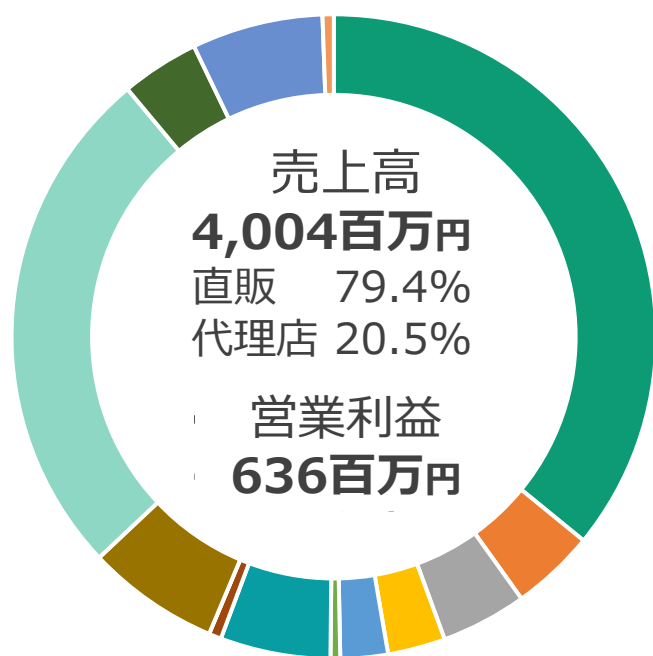
- ・ 2拠点新設やグループ会社設立、積極的な投資を通じビジネスを拡大
- ・ 2021年4月よりGAPを本格的に販売開始、100台以上の販売を予定

（単位：百万円）

	2020年 実績（連結）	2021年 業績予想（連結）	
	金額	金額	前年同期比
売上高	4,004	4,600	+14.9 %
営業利益	636	1,010	+58.7 %
経常利益	643	1,010	+57.0 %
親会社株主に帰属する当期純利益	430	700	+62.6 %
1株当たり純利益金額（円）	16.81	27.34	—
1株当たり配当金額（予定）			
中間配当（円）	2.50	2.50	—
期末配当（円）	5.50	5.50	—
年間配当金合計額（円）	8.00	8.00	—

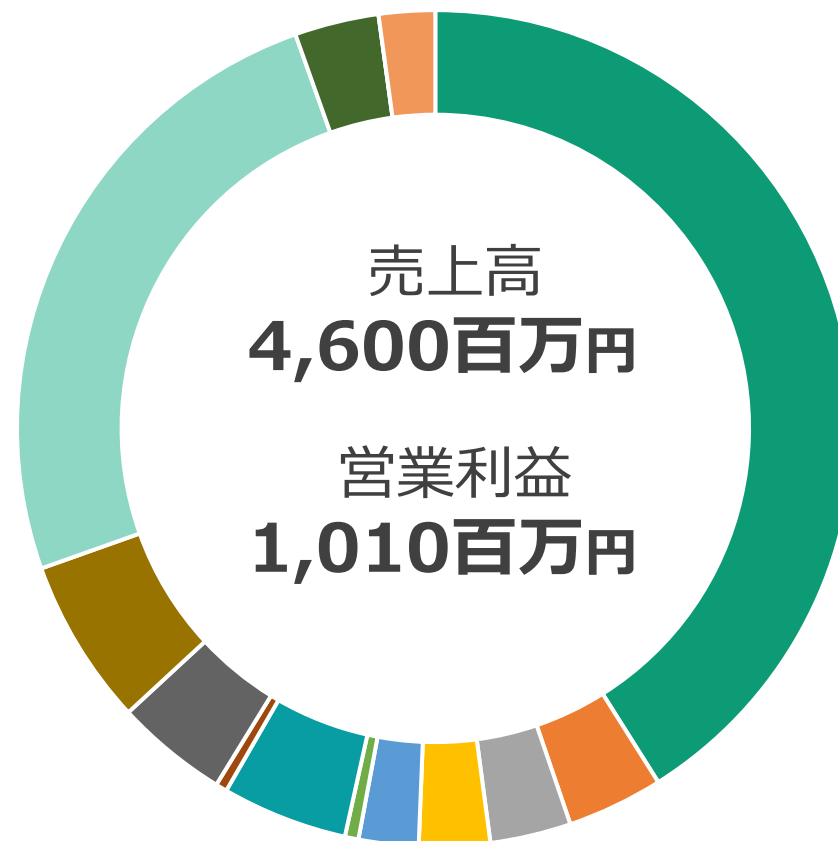
製品別 売上高予測

2020年 連結



- Claio
- DocuMaker
- C-Scan
- MoveBy
- REMORA
- OEM
- 放射線
- 医療以外
- GAP
- ハードウェア
- メンテナンス
- ライセンス
- その他
- 連結子会社

2021年 連結（予想）



2021年 各事業セグメントにおける取り組み

ヘルステック事業において着実に利益を創出 医療システムのクラウド化へトランスフォーメーションを加速

医療システム 事業

- ・ 医療機関のICT化・効率的な医療サービスの提供へ貢献
- ・ コロナ感染拡大を受け、システムの在り方も今後変化
⇒全製品のクラウド化・月額利用モデルの本格的な販売

オフィスシステム 事業

- ・ ナショナルセンターでの大規模稼働など、導入数が急伸
- ・ 他社協業や既存の医療系販売網を活かし効率的に販売展開
⇒病院のバックオフィス・中小の自治体・公社で引合多数

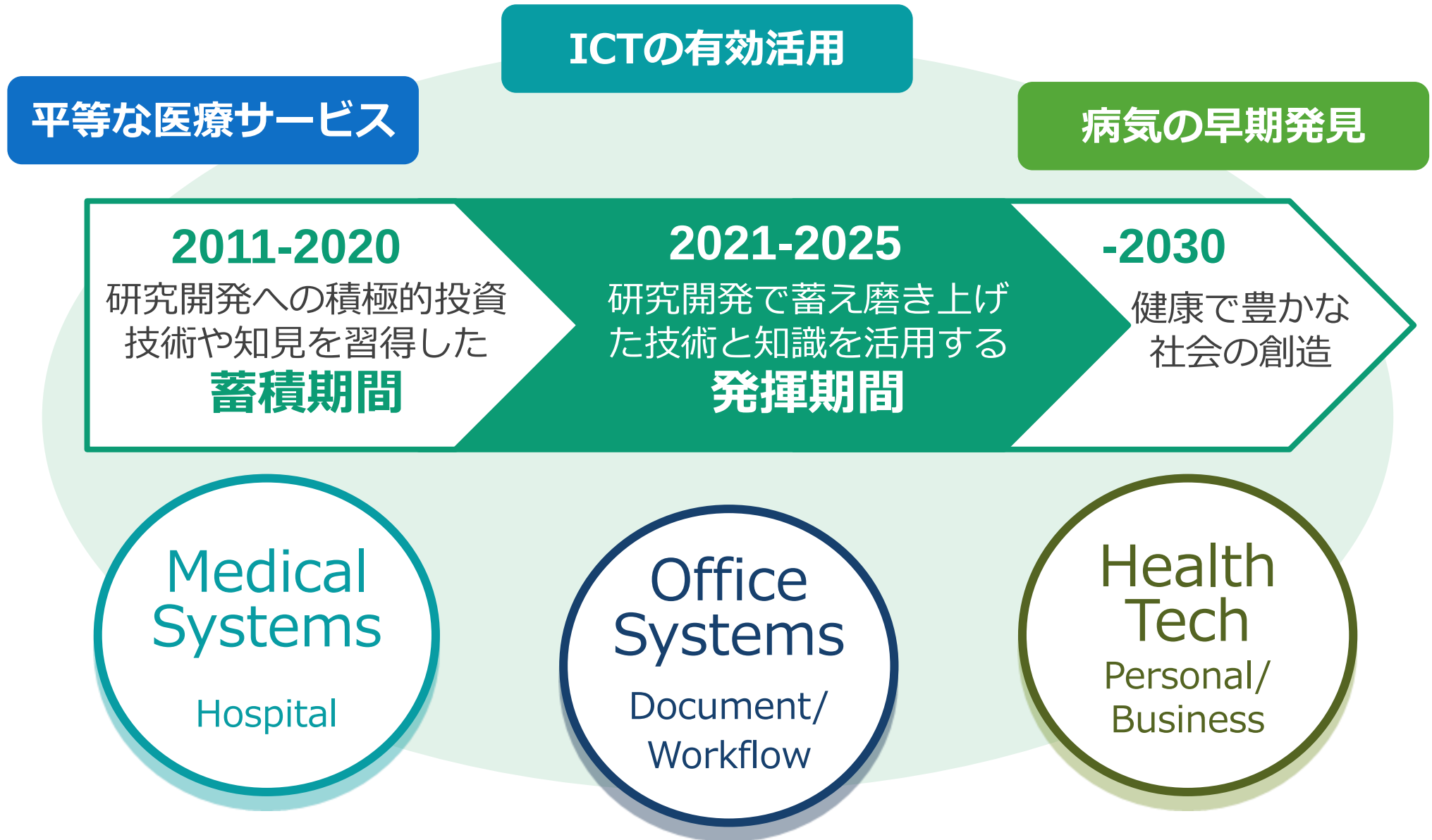
ヘルステック 事業

- ・ 国内にてGAPを4月販売開始、視野検査事業が本格始動
- ・ 医療データの分析とAI診断支援に向けた取り組みを強化
⇒Fitting Cloudと連携し、健康データ活用新ビジネスを展開

ニュースリリース Vision for 2025 について

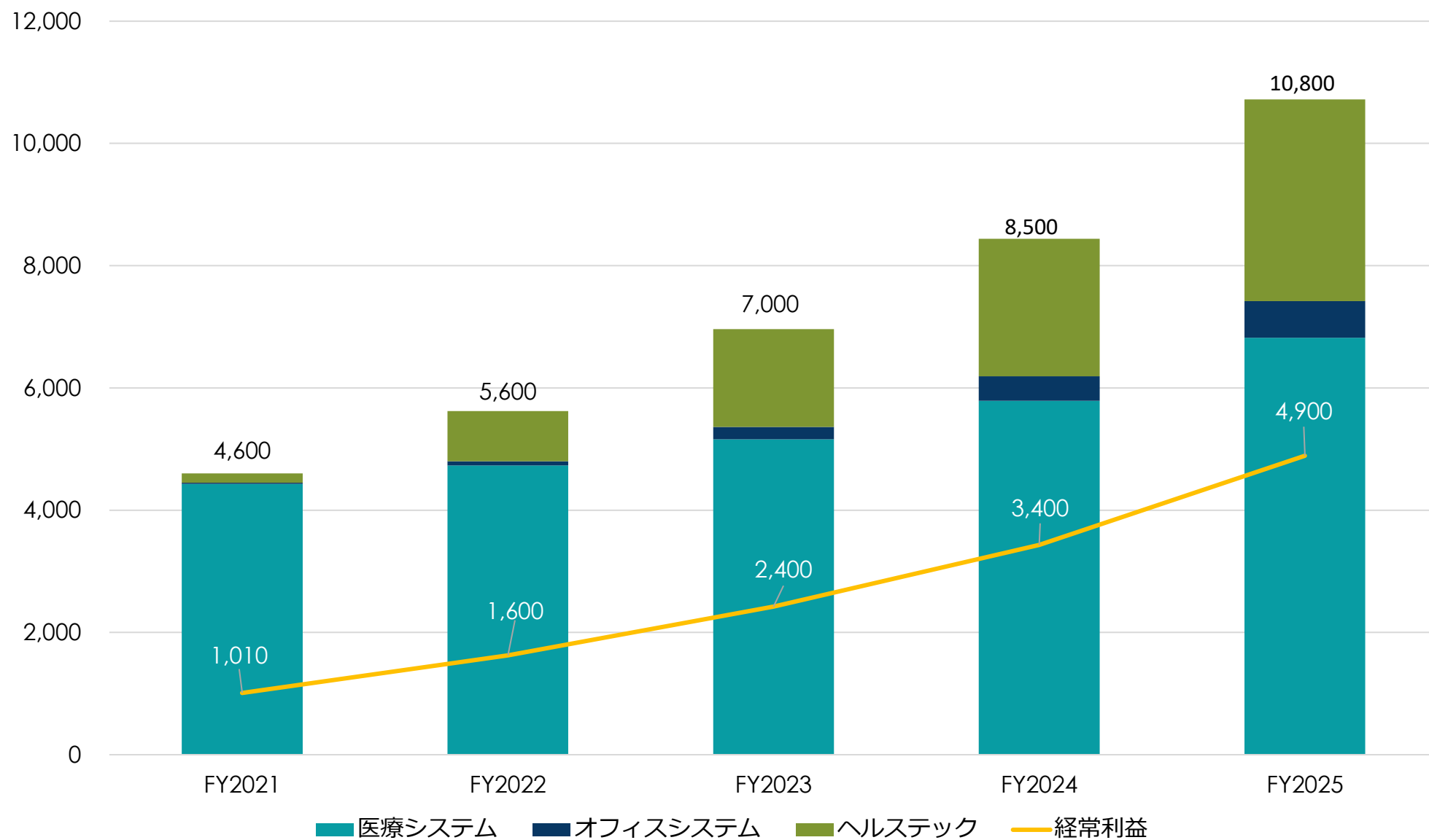
事業概要と今後の展望

世界中の全ての人々が、健康な生活を送れる社会の形成に貢献します



今後5年の経営数値目標（連結）

(単位：百万円)



～2025年 各事業セグメントにおける取り組み

サービスサプライチェーンの構築により、 競争力あるR&D資産を短期間で新しいマーケットに浸透させる

医療システム 事業

- クラウド化を完了した病院情報システムをいち早く既存ユーザーに展開し、中小規模病院に新しい課金モデルで提供
- 既にシステム導入済の病院と患者を繋ぐ「診療支援クラウドサービス」を展開
- 次世代医療基盤法、個人情報保護法を遵守し、診療データの集積を安全に管理
⇒創薬や治療法開発を支えるデータビジネスを構築

オフィスシステム 事業

- DocuMaker Officeの全リソースを自治体・公社向けに選択集中する
- 業界認知度向上のため「決裁/文書管理システム」へ効果的にマーケティング資源を配分する
- 自治体に販路を持つ大手メーカー、各地元でネットワークを持つ中堅システムベンダーをパートナーとし、多面展開で早期にマーケットリーダーを目指す

ヘルステック 事業

- GAPに研究開発リソースの80%を投入し、海外向けに製品価値を高め、販路を拡大
- 国内の眼科医療機器ディーラー経由で早期に眼科医療機関への浸透を図り、検診や人間ドック領域に新しいマーケットを創出
- EU、米国、ASEAN、中国、インドなど海外で販売力を持つ企業と連携し、マーケットを確立

～2025年 医療システム領域における取り組み

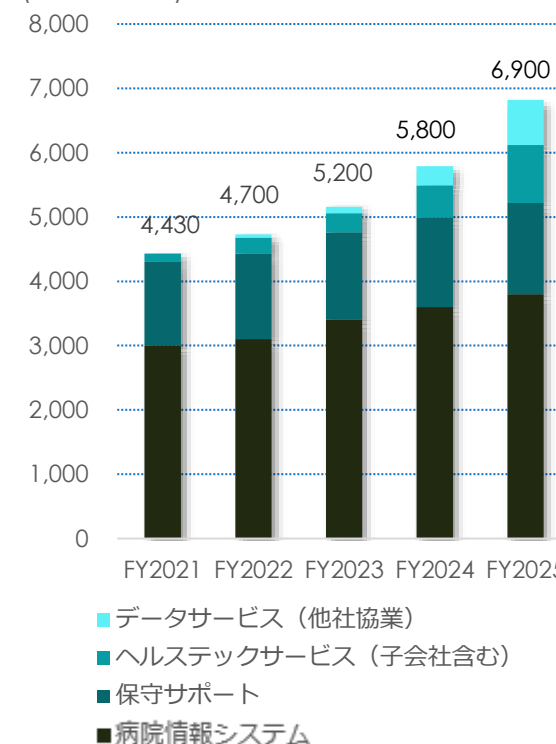
今まで構築してきた**院内情報システム**を活用し、
医療サービスに付随する外部サービスまでも連携できる社会の構築を目指す

- 遠隔診療を身近な手段へ、どこにいても質の高い医療サービスが受けられる社会を目指す
- 医療機関のICT化実現により、環境問題への取り組みにも貢献
- 処方箋の電子化やスムーズな処方、創薬の研究開発に貢献
- 医療機関の予約から通院手段の選択まで各種インフラとの連携を実現



医療システム数値目標

(単位：百万円)



ファインデックスは電子カルテに加えて、患者受診支援クラウドを実現
様々な企業とのアライアンスで病院と患者の診療サイクルをサポート

～2025年 オフィスシステム領域における取り組み

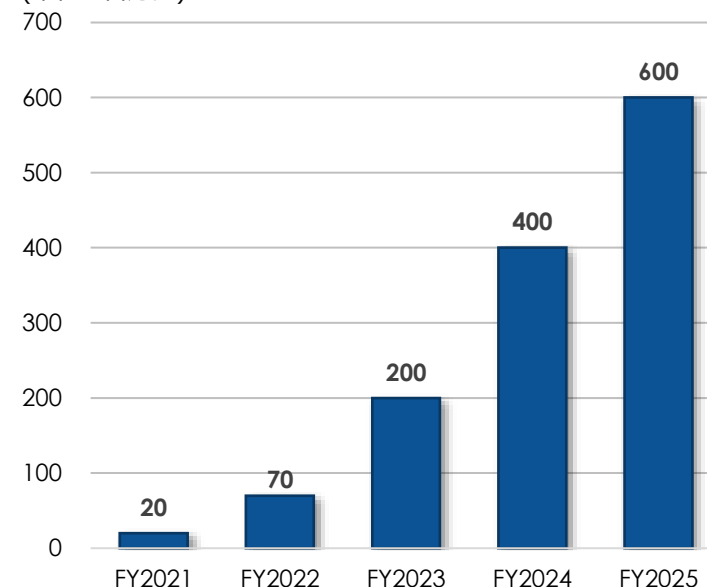
大規模病院で**多くの実績を持つ医療文書管理システム**を様々な業種に展開し、
多くの職場に使いやすさと安心を提供する

- 中小規模自治体における決裁・帳簿管理システム領域はニーズが高く競争も少ないため、マーケット環境は良好
- 日々の効率的な業務やペーパーレス・印鑑レスが働きやすい環境を実現（在宅勤務も対応可能）
- プラットフォームを医療版と共有することで安価に販売でき、多くの実働実績を盾にスムーズな導入が期待できる



オフィスシステム数値目標

(単位：百万円)



※ビジネスマーケット 全国1,718市町村（市：792 町：743 村：183）
引用：総務省

自治体DX推進計画 2021年1月～2026年3月

総務省は2021年の地方自治体DXに向けて38億8千万円の予算を計上

= 2020年当初の予算に比べ約5倍の額

⇒国として電子決裁やペーパーレスでの簿冊管理を推奨

パートナー経由での導入販売を積極的に展開

安定的な成長を遂げている医療分野に加えて、
自治体向けのビジネスを成長性のあるセグメントにする

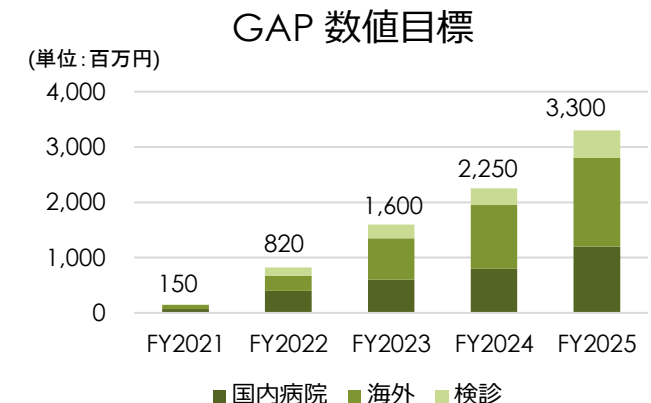
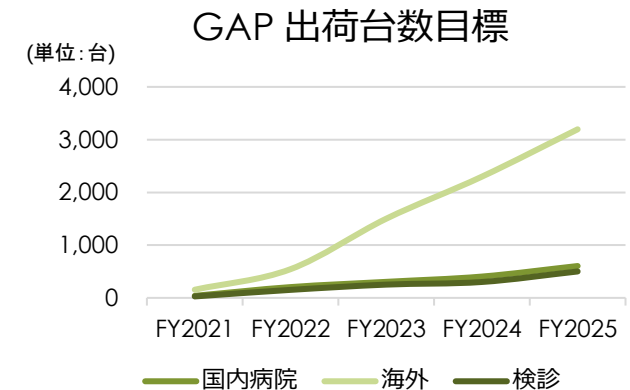
～2025年 ヘルステック領域における取り組み

テクノロジーと医療を掛け合わせた当社独自の最新技術を通じて、**グローバル規模で医療アクセスを改善し、予防医療の発達**に寄与する

- 5年以上に及ぶ京都大学との共同研究を経て、患者に負担の少ない新しい視野検査手法を確立
- 医療機器申請を完了し、国内外の学会でも高い評価を得る
- 従来品より安価・コンパクトな装置、且つ短時間で検査完了
⇒医療機関での検査件数を増やすことに繋がり、多くの視野異常早期発見が期待できる
- 一度の検査で様々な疾患が診断できる、新しい検査のスタンダード確立を目指す



GAP：ゲイズアナライジングペリメーター
医療機器製造販売届出番号：38B2X10003000002



**GAPは特許と価格的な優位性を持ち、
高い競争力で先進国から新興国まで全世界での利用を目指す**

ニュースリリース
その他アップデート

● 国内2か所に支店を開設

- **京都支店（2021年4月）**：大阪支店だけではカバーしきれなかった医療機関や自治体等への販売拡大に取り組む他、開発拠点としての機能も整備
- **新潟支店（2021年5月）**：日本海側をカバーする目的で初の中部地区の拠点として開設、今後さらなる浸透を図り情報収集と提案活動を推進

● フィッティングクラウド株式会社が2021年4月より事業開始

- 京都大学医学部附属病院へ、GCPを利用した診療科向けネットワークストレージサービスを準備
 - AMEDや学会が進めるデータ収集事業のクラウド基盤を構築
- ⇒ 一次側クラウドサービス事業者とのパートナー契約が締結後、7月より順次サービス提供を予定

● オフィスシステム分野においてコニカミノルタ株式会社と協業開始

- 自社製品「DocuMaker Shelf」の提供を通じ、電子簿冊サービスの普及へ貢献
- コニカミノルタ社の自治体DX支援プラットフォームで取り扱う様々なサービスと組み合わせ販売し、自治体の課題解決をより強力に支援

付録

- 会社概要

- 各事業セグメント基本情報

 - 医療システム

 - オフィスシステム

 - ヘルステック

会社概要

会社名	株式会社ファインデックス（英訳名 FINDEX Inc.）
代表者	代表取締役社長 相原 輝夫
本社	東京都千代田区大手町2丁目6-1 朝日生命大手町ビル1F
他支社・支店	四国支社 大阪支店 福岡支店 札幌支店 那覇支店 京都支店 新潟支店
子会社	EMC Healthcare株式会社 フィットティングクラウド株式会社
沿革	1994年 5月 医療システム受託開発事業を株式会社化 1998年 3月 医療システムパッケージ開発及びコンサルタント業務を開始 2011年 3月 大阪証券取引所（JASDAQ市場）に株式を上場 2014年11月 株式会社ピーエスシーから株式会社ファインデックスに社名変更 東京証券取引所市場第一部に市場変更
URL	https://findex.co.jp
資本金	2億 5,425万円
全従業員数	289名（連結：297名） ※パートタイマー等10名（連結10名）含む

各事業セグメント基本情報

医療システム領域

強力なソリューション群

医療機関向けソリューション



画像ファイリングシステム
Claio



文書作成システム
DocuMaker



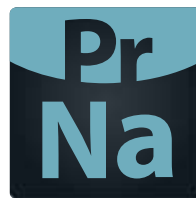
放射線情報システム
ProRad RIS



診療記事記載システム
C-Note



電子カルテ
REMORA



放射線画像閲覧システム
ProRad Nadia



紙・デジタル文書管理システム
C-Scan



紹介情報管理システム
PDI + MoveBy



放射線レポートシステム
ProRad RS



診療所・単科向け
画像ファイリングシステムパッケージ
ClaioBOX



周産期システム
MapleNote



DocuMaker
ストレスチェックシステム

オフィス向けツール



文書管理システム
DocuMaker Office

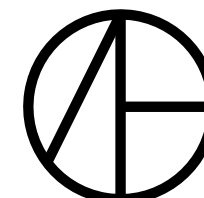


RPAツール
DigiWorker



Screen Based EAIツール
Data-Connector

HealthTech



視線分析型視野計
GAP



体動センサ
CALM-M

医療システム事業のキーポイント：大学病院への導入数

500床 以上 401施設

ユーザー数：**255施設**

100～499床 4,954 施設

ユーザー数：**583施設**

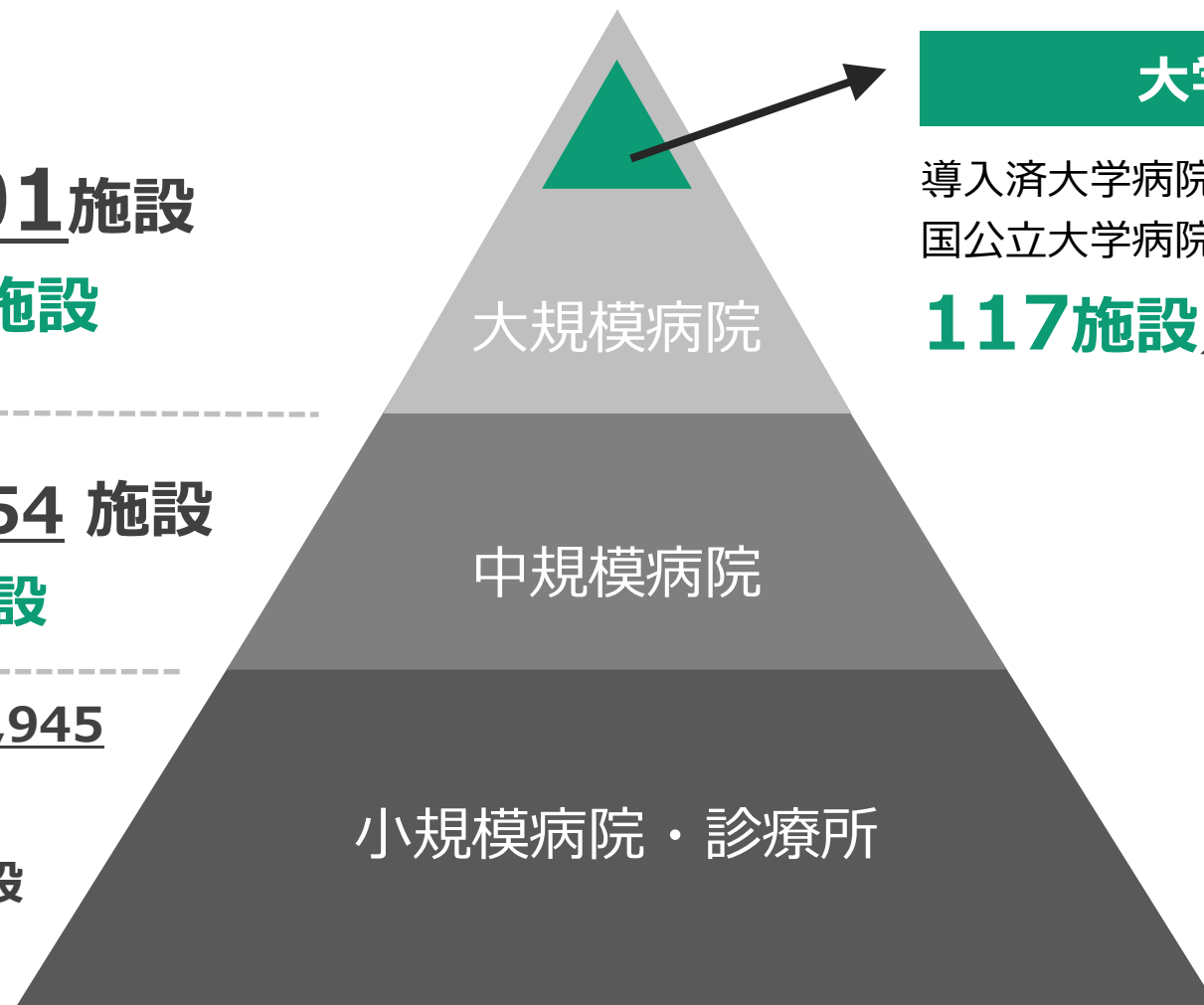
小規模病院：20～99床 2,945 施設

ユーザー数：**132施設**

一般診療所：102,616施設

ユーザー数：**1,181施設**

地域包括ケア関連製品：18サイト



大学病院

導入済大学病院数／

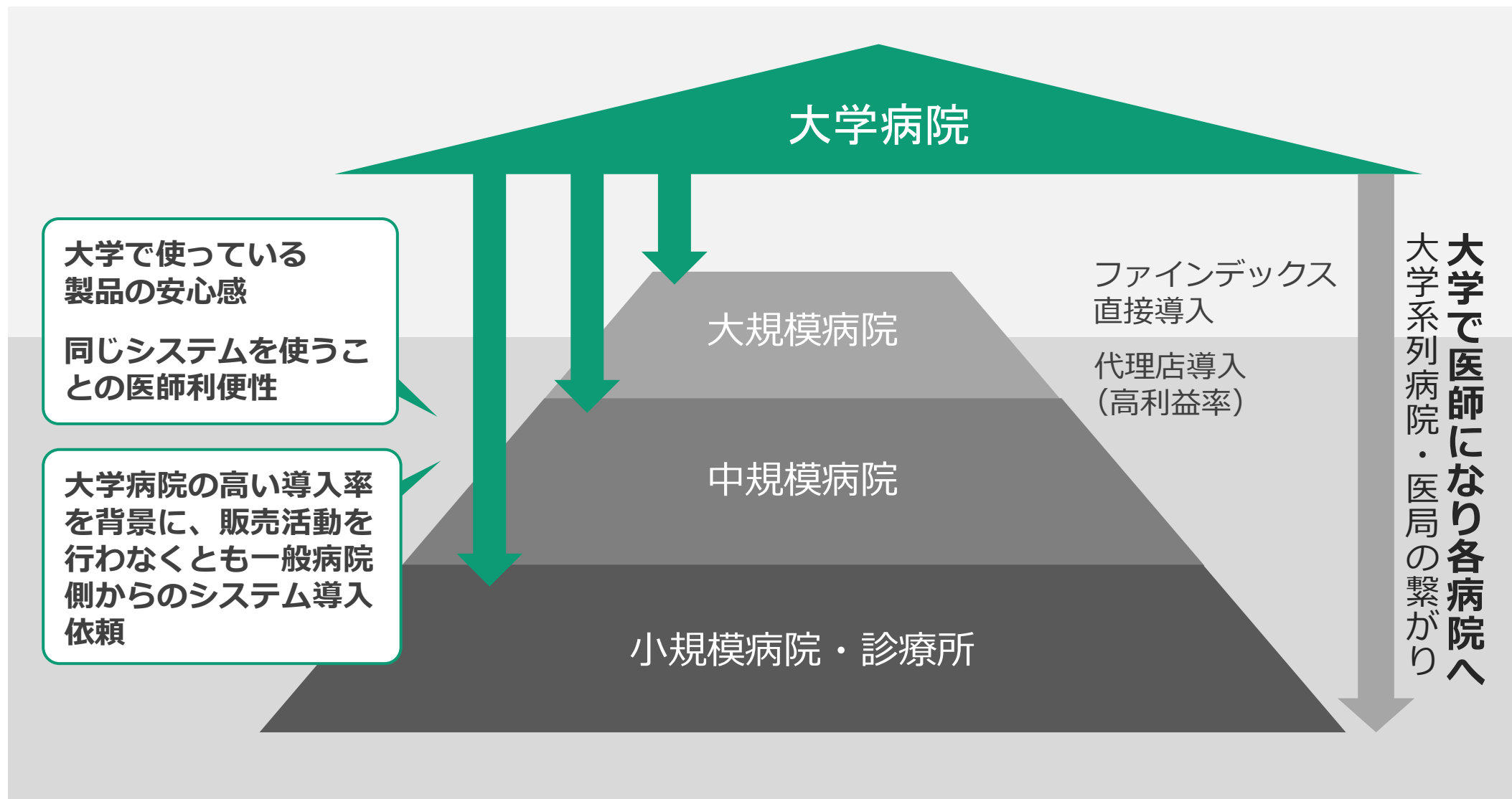
国公立大学病院・私立大学病院数

117施設／149施設

(分院含む)

(2021年6月末現在)

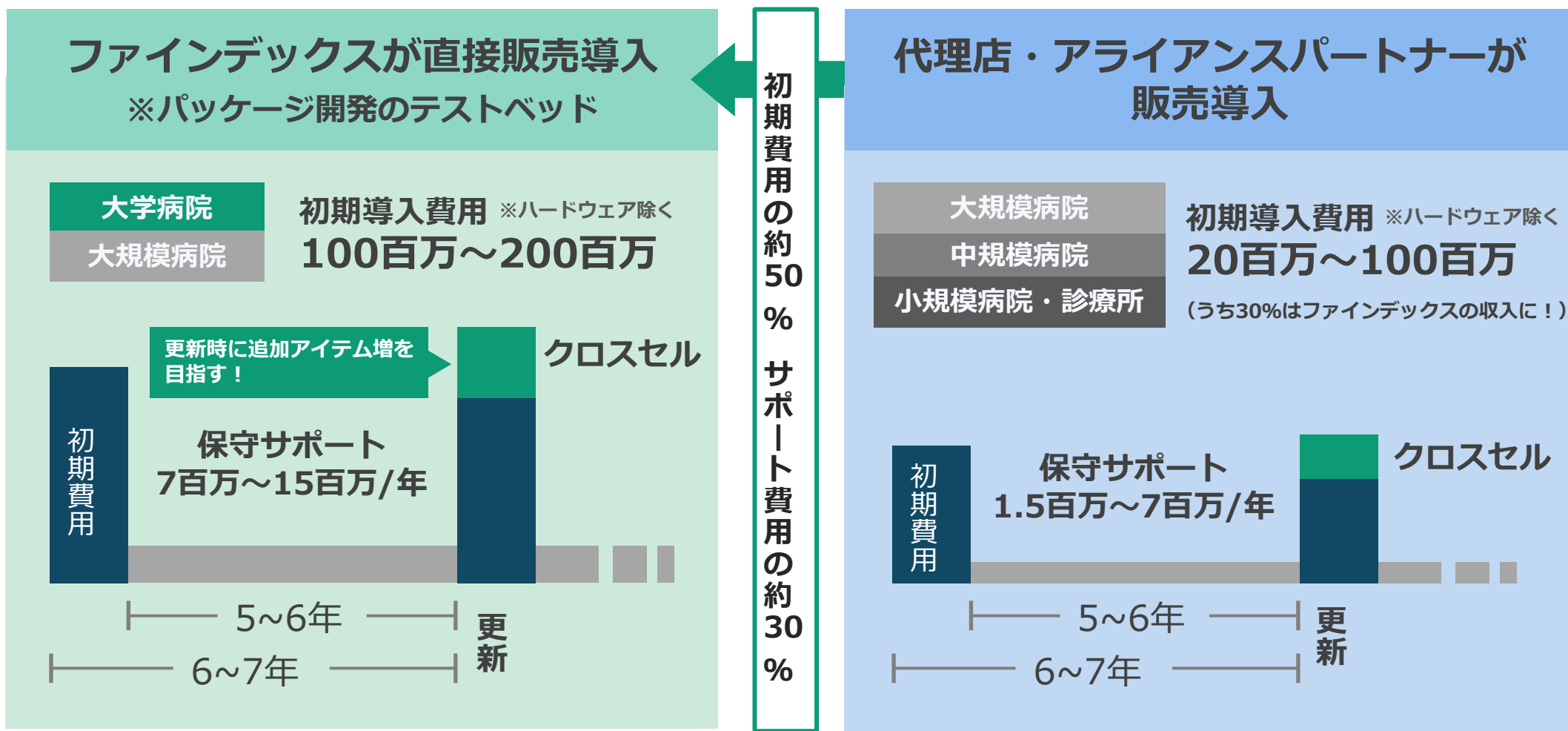
大学病院は最大のリードユーザー



医療の売上サイクル（イニシャル&ランニング）

医療システムは、サーバやPCの耐用年数に合わせて5～6年サイクルで更新される

⇒近年は6～7年に更新時期を延長する施設が増加している



他社を引き離すクロスセル Claioはプラットフォーム

検査器機ごとの買い揃えは不要
Claioのインフラ機能を共有するため安価

TOTAL **125百万円**

内視鏡システム **ソフトウェアのみ** 15百万円

産科カルテ **ソフトウェアのみ** 30百万円

眼科カルテ **ソフトウェアのみ** 30百万円

ベーシックなClaio **50百万円**

Claio ※ソフトウェア
各種検査データ管理

他システム
連携機能

Server
ストレージ

※最も基本的な各診療科の検査機器のデータファイリング

ファインデックスシステムの構成

TOTAL **190百万円**

C社 内視鏡システム 30百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

B社 産科カルテ 80百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

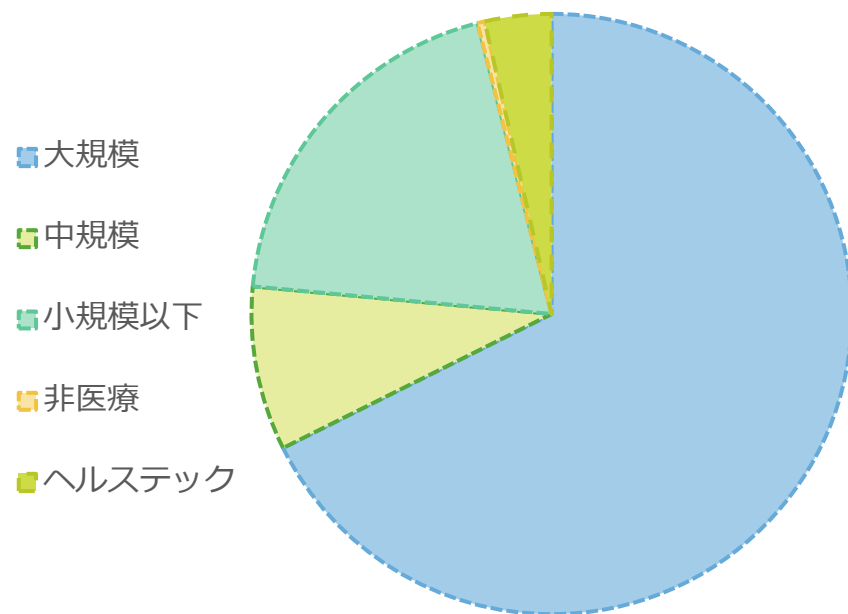
A社 眼科カルテ 80百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

他社システムの構成

(参考) 商流と業績予測方法

2021年予想



売上の多くを大規模導入が占める

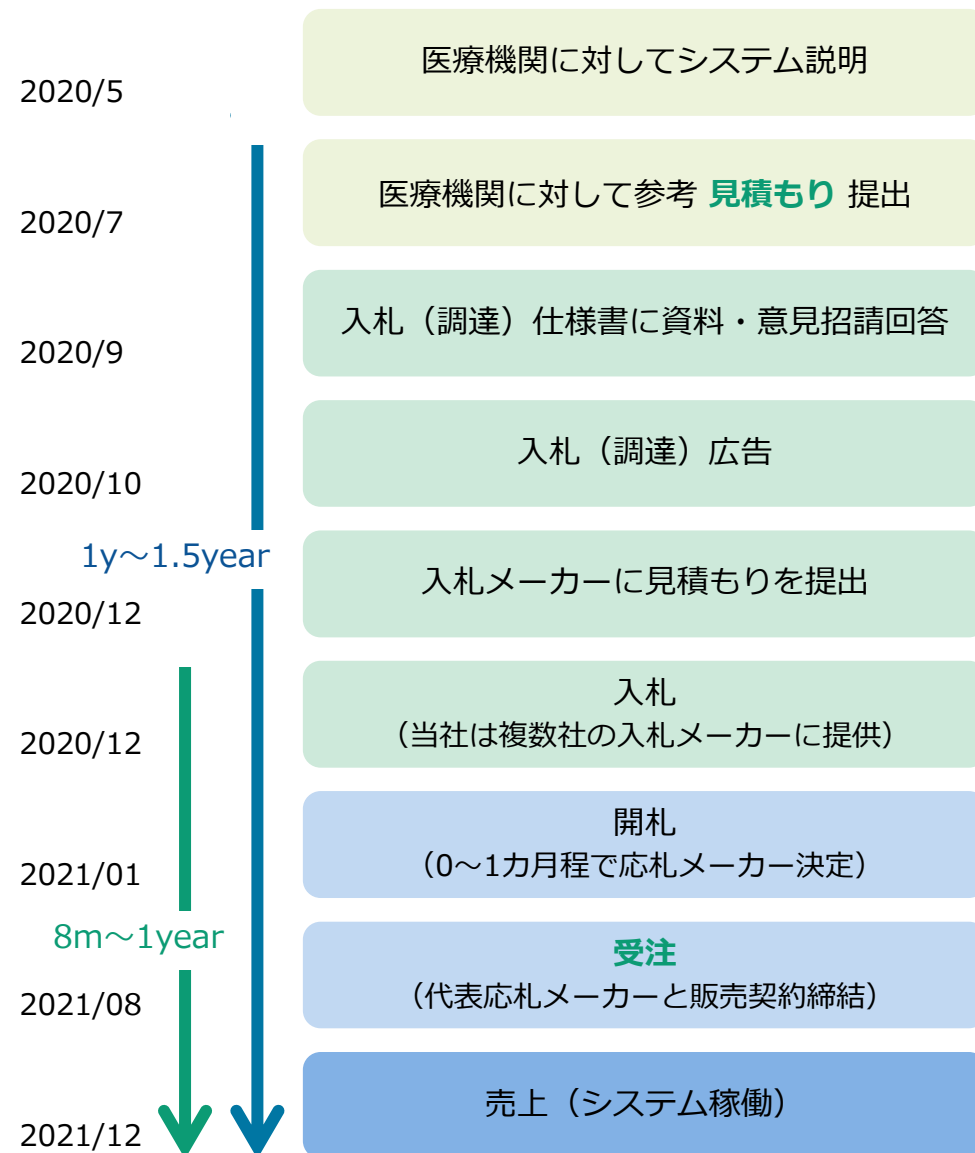
大規模医療機関ではシステム調達規模が大きく一般に国際競争入札になる。医療機関が導入を予定する種別のシステム会社には1年以上前からヒアリングが開始されることが多い。

そのためファインデックスが次年度の予測に使うのは一般的な「**受注残**」ではなく「**見積もり残**」としている。

※調達規模が小さい場合は数ヶ月で完結する場合もある。

近年はさらに商談が長期化する傾向にある

医療：大規模施設の商談の流れ（例）



各事業セグメント基本情報 オフィスシステム領域

文書管理システム DocuMaker Office

- 医療用ドキュメント管理システムとして**多くの実績をもつシステム**を「非医療業界」に投入
- 基幹部分を開発済みなので、**低リスク&高利益率**
- 自治体と医療機関を中心にビジネスを展開中

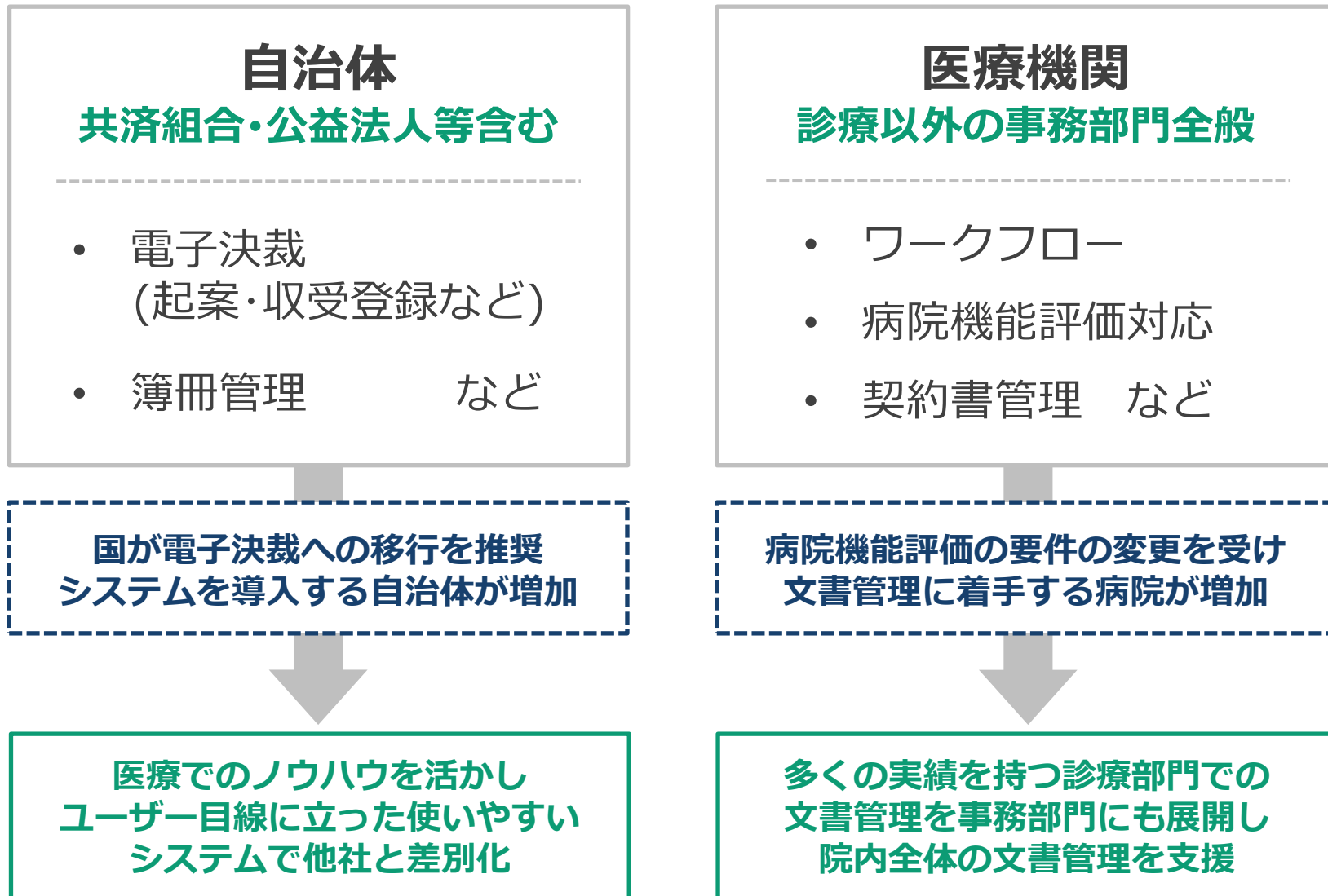
RPAツール DigiWorker

- 既に当社が持つ技術をRPAツールとして製品化
- オフィス**業務の自動化を安価に実現**

DocuMakerストレスチェックシステム

- ストレスチェックサービス提供事業者向けのシステムを開発
- 大規模事業者や医療機関、健診施設を中心にビジネスを展開中

DocuMaker Officeの強みが活かせる 「自治体」と「医療機関」をメインターゲットに

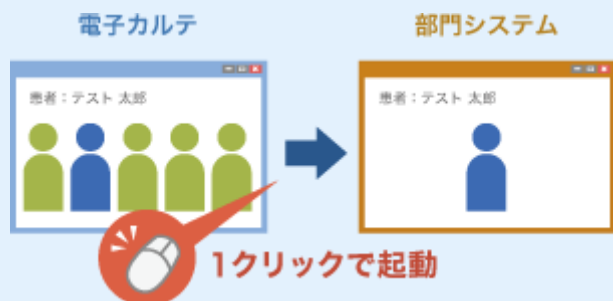


RPA (Robotic Process Automation)

データを収集・加工しシステムに登録するといった業務自動化の取り組みやソフトを指す。
ワークスタイルの多様化に注目が集まる中で、人手不足や業務効率化を目的に導入施設が増加中。

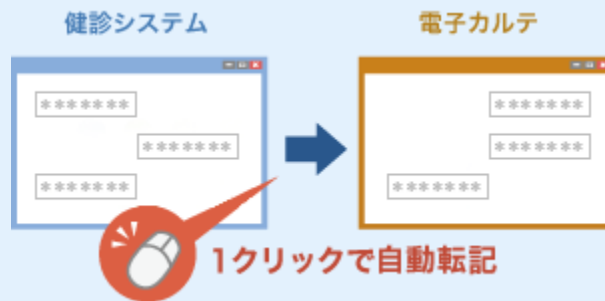
こんなシーンで

起動連携



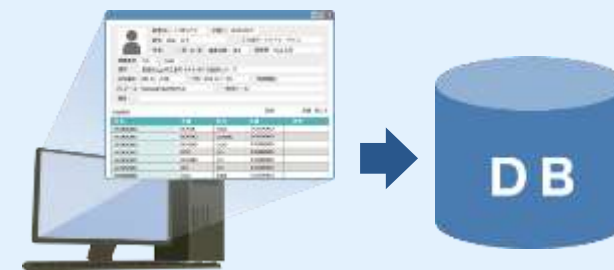
1クリックで電子カルテで開いている患者情報を引き継ぎシステムを起動

データ連携



システムに入力した情報を1クリックで別のシステムに自動転記

データ移行



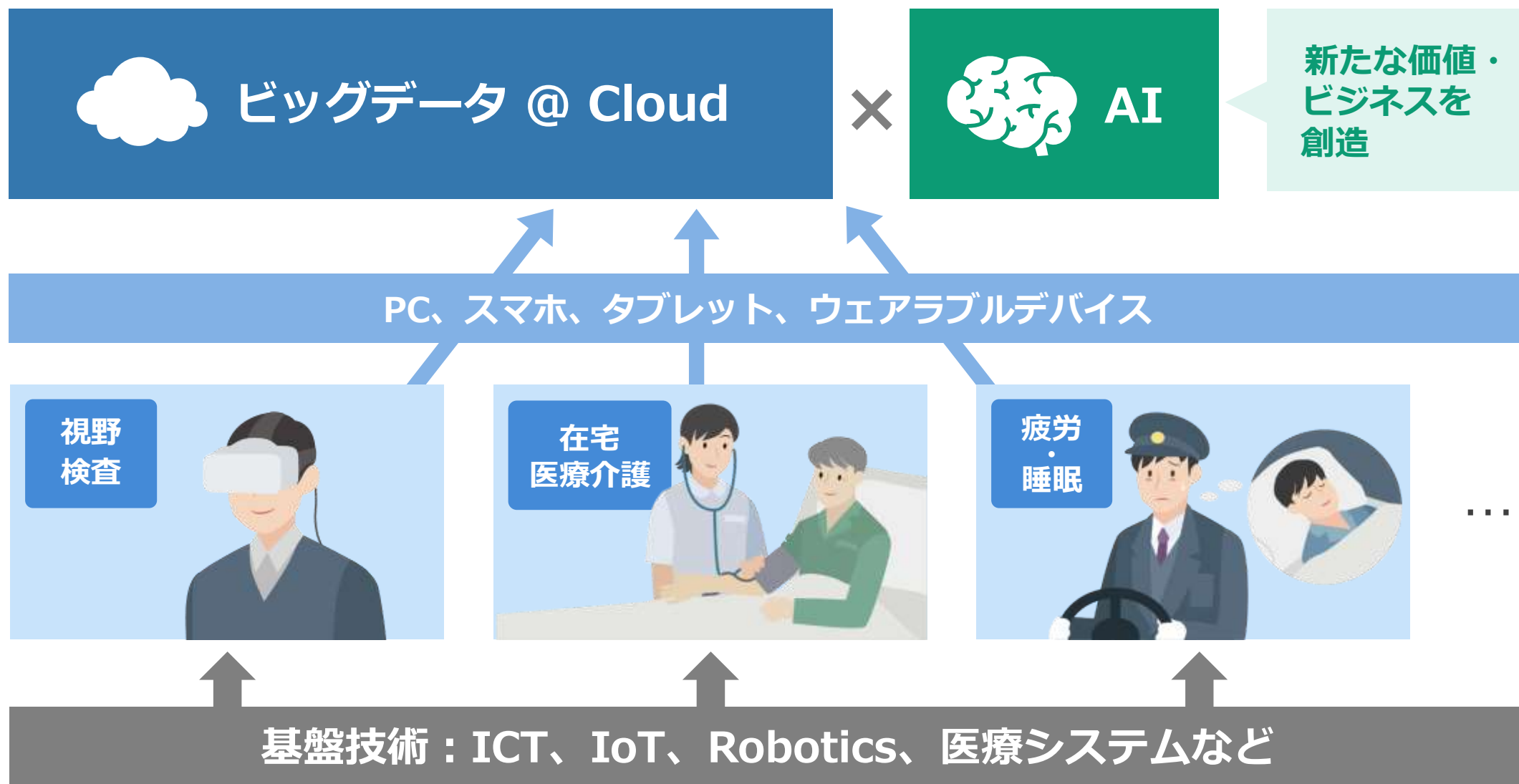
現在のシステムベンダに依存することなく、安価にデータ移行が可能

- 既に多くの医療機関で利用されているが、RPAへの注目の高まりに合わせて、今後さらに需要は増える見込み
- 医療機関の運用を知り尽くした当社だからこそ、業務効率化だけでなく、システム連携費用を圧縮するツールとして積極的に展開

各事業セグメント基本情報 ヘルステック領域

HealthTechに関する取り組み

高い技術力を活かし、様々なデータを収集・分析





視野検査

新しい視野検査手法を確立し、
視野以上の早期発見を目指すと共に
ビッグデータを活用したビジネスを展開していきます。

2つの側面からビジネスを展開

視野検査システムの開発

- 世界初の視野検査システムを開発
- 医療機関だけでなく、
健診施設においても検査を可能に
(検査は視能訓練士が実施)

視野疾患データの収集・分析

- 無料アプリとして配布
- 世界規模の視野疾患に関するデータを収集
- 病気予防や創薬、健康管理に活用

GAP 視線分析型視野計 の新規性

GAP	既存製品
検査機器が 自動で 「見える見えない」を判断 ➡ 間違い・思い違いがない	患者が自分の感覚で「見える」を判断 ➡ 間違い・思い違いが発生する
3分~5分 で両眼の検査が終了 ➡ 検査できる人数が増加	20分かかる場合も珍しくない ➡ 予約制で検査の管理も必要
ヘッドマウント型 ➡ 場所を選ばず 待合や検診施設でも実施可	大型の機械を暗室に設置 ➡ 設置場所の制限は眼科に限られる
眼を動かす ことで検査を行う ➡ 少ない負担・子どもや高齢者も検査可能	眼を動かしてはいけない（要固視）検査 ➡ 大きな負担・子どもや高齢者には困難
結果は検査者の技術に頼らない ➡ 病院以外の新しい場所でも利用可能 ※1	結果は検査者の技術に依るところが大きい ➡ 視能訓練士のみが検査を実施
網膜疾患以外の病気の発見も可能 ➡ 神経疾患や認知症の研究も進行中	緑内障などの網膜疾患のみに対応 ➡ 多角的な検査は不可

※1 現在、日本国内では視能訓練士による検査が必須

健診利用、診療利用、国外利用の 3ステップでシステム販売とデータ利活用を事業化



- フェーズ1** • 2019年2月： **GAP-screener** 国内医療機器 届出完了・販売開始
- フェーズ2** • 2019年1月： **GAP** 国内医療機器 届出完了
- フェーズ3** • 2021年4月より **GAP** 販売開始
• 北米、中国、インド、東南アジア、南米の現地パートナーを検討中
- その他** • 製薬企業や大規模眼鏡店グループ等とのビジネスを計画中

健康な人も含む、全世界的な視野データの収集と分析



- 手軽に利用できる無料アプリとして提供することで、個人の健康管理を支援するだけでなく、アプリを通じて世界中から集めた情報をビッグデータとして活用し新たなビジネスを展開



健康な人も含む、
全世界的な視野データ収集と分析ビジネス

AI映像解析：午睡モニタリングシステム「ベビモニ」

天井にカメラを設置し、AIで子供の姿勢を識別

- カメラ1台で複数の子供を同時にチェック
- 取り付け・取り外し、設置・片付けが不要
- 誤飲による事故リスクなし



BabyTech® Award Japan 2020 powered by DNP 大日本印刷
安全対策と見守り部門の優秀賞を受賞

新型コロナウイルス対策向け健康管理サービス「Wellness Passport」

非接触で健康チェックや本人確認

- 事前に各自が健康データを登録・管理
- イベント当日は、QRコードを読み取ることで本人確認と直近の健康データの確認、検温を非接触で実施

想定される利用シーン

- ・ スポーツや各種イベント運営者
- ・ 飲食・観光業関係者
- ・ 小売店関係者
- ・ 地方自治体 等

Withコロナ・Afterコロナ期において、
人の集まる場所での健康管理を支援

* 2020年10月11日 九十九里トライアスロンで活用



ウェアラブル体動計 CALM.

- EMC Healthcare株式会社の開発したウェアラブル体動計を利用して体動や脈波を取得
- 遠隔医療における患者の状態把握や異常検知、企業における従業員の健康状態の把握などに活用
- 価格に加えて、デバイスの大きさや稼働時間、取得したデータ分析において、他社に対する優位性を持つ



遠隔医療、ビジネス・パーソナルヘルスケアに貢献



デバイス×AI＝ソリューション

健康保険データ分析ソリューション

- 健康保険の被保険者・被扶養者のレセプトデータおよび特定健診の結果を分析することで、地域住民の健康状態や課題の可視化

属性別疾患モデル

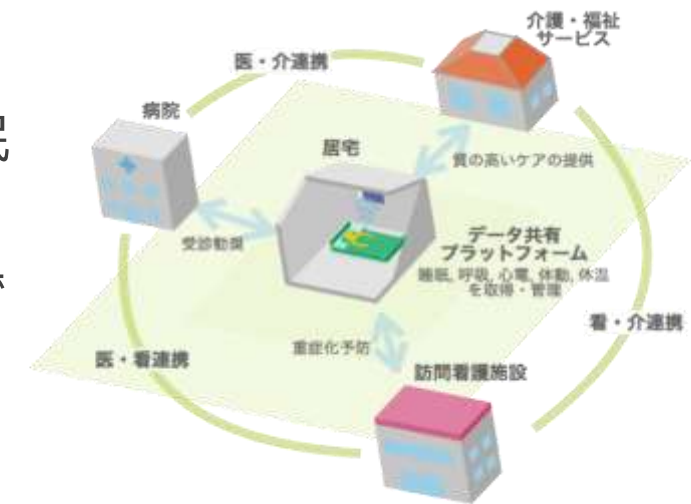
病態遷移予測モデル

医療費予測モデル

医療費予測モデル

地域包括ケアにおける在宅促進とケア負担軽減

- 患者の身体状態管理が可能なデバイスを利用し、睡眠状態をモニタリング・分析
- 健康状態の変化やその兆候・要因を早いタイミングで把握しサービス提供者と共有



人工知能型：

AF（心房細動）検知ソリューション

- 心電図のデータから人工知能によって必要な情報を抽出し、高速かつ高精度(96.6%)にAFを検知

Always have, Always will.

